

議事録

会議の名称	第4回別府市協働のまちづくり推進委員会
開催日時	令和3年7月21日(水) 14:00~15:40
開催場所	別府市役所 5階 大会議室
出席者	委員：藤井委員、福谷委員、平石委員、大塚委員、上里委員、 内田委員、手束委員 (※彌田委員、中山委員、西委員 欠席) 事務局：山内室長、岡崎補佐、首藤主査
≪会議の内容≫	
■議題(1) 令和2年度協働推進事業の実施状況について	
<p>別府市協働のまちづくり推進条例第10条に基づき、協働のまちづくりの推進に関する施策の令和2年度実施状況を事務局から委員会へ報告。委員からの意見等は下記のとおり。</p>	
①啓発活動及び人材育成の推進	
<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍で外部講師を招いての研修等が開催できない中、新採用職員を対象として、自治連携課職員を講師とした研修を実施したことは評価できる。担当した職員自身の気づきや学びにもつながる。・「コロナ禍でできない」ではなく、「できること」を進めていくことが重要である。	
②市民と市の相互理解の推進	
<ul style="list-style-type: none">・例えば、防災といった具体的なテーマで取り組んでいくことが、協働の理解を促進するために有効である。・対面できなくても、デジタルを活用して顔のみえる仕組みづくりを構築することができる。・若い世代のマンパワー結集が必要不可欠である。ひとまもり・まちまもり協議会の活動でも、中学生と連携して事業を実施したことで世代交流が広がったと実感している。・協働の理解を推進するためには、まず出会いの場づくりが大切で、そこから課題も見え次世代にもつながっていくと思う。・地域における課題に対しては、行政に連絡をして指示を待つのではなく、まず地域ができることをしていくことが重要である。何事も一気に進めていこうとすると負担が大きいのので、できるところから徐々に取り組んでいくことが大切である。	
③体制づくりと支援策の推進 ④環境整備	
<ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のためこれまでのような地域活動ができない中、ひとまもり・まちまもり協議会は共通の課題としてコロナ感染対策に取り組んだ。また、今年度には全ての協議会が立ち上がったが、令和2年度に実施した設立に向けた支援の成果として評価できる。	

⑤取組の評価や見直しの推進

- ・市とNPOとの協働事業においては、協働の手法や委託・補助額の調査にとどまらず、委託業務であれば公的支援ができない部分のサポート事業であるかなど、内容を精査した集約が望ましい。
- ・NPOを育てることは必要だが、補助金の交付や業務委託が定例化することは避けるべきである。引き続き事業の質の精査や見直しが必要である。

▶以上の委員の意見をまとめ、委員会としての評価結果へつなげていくことです承。

■議題（2）別府市協働指針の改定について

指針策定から7年が経過し、本市施策の動向や地域における状況の変化に即していない部分を見直すにあたって、委員会の意見を反映する。委員からの意見は下記のとおり。

- ・「市の現状と課題」では、総合計画にある「別府市を取り巻く環境」さらに中規模多機能自治という「めざす姿」を踏まえた内容とし、「市民の現状と課題」では新たなコミュニティの形成などの具体的施策に修正する。
- ・「協働をすすめるうえで」では特に大きな修正は必要ないが、一部、具体例を挙げる箇所においては、現状に即した例となるよう留意する。

▶以上の委員の意見を反映させ、改定案を作成する。

■議題（3）その他：令和3年度協働推進事業経過報告

自治連携課が実施するひとまもり・まちまもり自治区形成事業など、令和3年度協働推進事業の経過報告並びに今後の予定について説明。委員からの質疑等なし。

委員会終了。